

哲学のなぐさめ

哲学のなぐさめ

市川治療室 No.139/2003.01

「哲学のなぐさめ」は『健康管理に役立つ本』として今月紹介した本のタイトルです。
著者アラン・ド・ボトンは1969年ロンドン生まれ。現在ロンドン大学の大学院で哲学指導教官。
「恋愛をめぐる24の省察」「ブルースによる人生改善法」などの著作があり、『哲学のなぐさめ』は英米でたちまちベストセラーになって、ペンギン・ブックスに入りフランス、ドイツ、スペイン、イタリアと次々に世界中に翻訳されていきました。

省察	…… ふり返ってみて、良し悪しを考えること。
	イギリスの出版社。アガサ・クリスティなどのペーパーバック出版で有名。
ペンギン・ブックス	…… 日本ではピーター・ラビットの絵本などでも有名。 出版される本には背表紙などにペンギンのマークがある。

以下は役者（安引弘）のあとがきからの抜粋です。

思い切ったタイトルをつけたものだなというのが、正直なところ最初の感想だった。
何しろピエリスの「哲学の慰め」は、中世の西欧を通じて『聖書』のラテン語訳について広く読まれた名著で、いわば中世最大のベストセラーなのだから。

… まあ「哲学」というと何やら重々しいが、ソクラテスが初めて「ピロピア」と名づけた時は「愛知」の意味だったし、知を愛する人達の「慰め」だって当世風に言い換えれば「人生相談」ってところかも。

そうすると、人類の「知の歴史」から最高のメンバーをカンテラーに選んだ「最高の人生相談」になるわけだから、タイトルもこれでいいのかもしれない……

…アラン・ド・ボトンが誰よりもかかえる日常の問題について 古今の哲学者に力を借りようとしたのも、哲学に対する確信からだった。

哲学とはもともと「よい人生を生きるための知恵」ではなかったのか。

そこで6人の哲学者が選ばれる。

ソクラテス	…… 「皆で群れることができない人の悩みに答える」
エピクロス	…… 「十分なお金を持っていない人の悩みに答える」
セネカ	…… 「思うようにことが運ばない人の悩みに答える」
モンテニ	…… 「自分自身が好きになれない人の悩みに答える」
ジョーハン・ワグナー	…… 「恋に破れた人の悩みに答える」
ニーチェ	…… 「困難に直面している人の悩みに答える」

以下は1998年1月のNo.87「科学・哲学と健康管理」からの抜粋です。

哲学者とは語源的に見れば「思索を愛する人」
科学者とは素朴に考えれば「真理を愛する人」をいう。

思索 …… 条理をたてて深く考えること。
条理 …… すじみち。ものの道理。

自然科学が自然界を支配する法則を実証的に捉えようとするのに対し、哲学は人間界や世界に対する主観的な見方を確立しようとする。

自然科学が一つの法則を見つけようとするのに対し、哲学はいくつもの見方を許容するが論理を貫徹する点では同じである。
その意味において両者は学問の双壁となり両輪となっている。

自然科学の性格の中には、合理主義があり客観主義がある。
こと科学に関する限り、科学の領域の理論に関する限り、合理主義の貫徹は美德なのだ。

科学はごまかしがきかない。身体の問題、健康の問題はごまかしがきかない。
それは科学の問題だからである。
何を経験し、学び、どんな情報をキューン（脳神経）にインプットしたかということが人間の行動を決定する。

今年も、脳にインプットするに値する科学的な情報をお伝えしたいと考えています。
